

科技高 いきものの記

Vol.54 2022.7.6

生物教員 佐藤龍平

梅雨に現れる小さなセミ ニイニイゼミ



①地上に出てきた幼虫



②木に登り始めた



③背中が割れ始める



④どんどん体が出てきた



⑤ほとんど体が出てきて、逆さ吊りになった



⑥脚を使って体の向きを変え、おしりを抜き出す



⑦抜け殻にしがみついて翅をおしりを出した



⑧みるみる翅が伸びていく

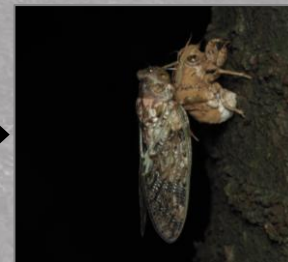


⑨すっかり翅が伸び切った

1cm



⑩ピーンと反った翅を…



⑪体を覆うように角度を変えた



⑫あとは翅が乾くの待つだけ

「連日ものすごく暑いけど、まだセミは鳴かないんですね」と、英語科のY先生が話しかけてくれた。皆さんわざわざ虫好きの私に合わせて話題を振ってくれる。なんと心優しい方々なのだ。ありがたやありがたや。……だがしかし！セミについては認識を改めてもらいましょう！だって、ちょうど先週から、すでにセミたちが鳴き始めているんだから！

いきもの記Vol.35で書いた通り、学校周辺には5種類のセミが生息している。中でも最も早く現れ、なおかつ最も認識されていない可哀想なセミが、ニイニイゼミ *Platyleura kaempferi* だ。ミンミン、ジリジリ、シャアシャア、ツクツク…そんなけたたましく鳴き喚く騒がしい輩とは違い、ニイニイゼミは「チー…」と控えめなおしとやかに品のある鳴き声を響かせる。控えめすぎて完全にBGM (Back Ground Music) と化すので、ほとんどの人が気付いていない（たぶん音に気付いた人がいても、セミだとは思っていない。）

ニイニイゼミの幼虫は、梅雨の頃に地中から出てきて羽化する。他のセミとは一味違う、小柄で美しい色合いの成虫が、ちょうど今、猿江公園で続々と羽化し始めている。

今年の梅雨は異例の短さだったが、これからいよいよ夏本番。ニイニイゼミ以外のセミたちもどんどん羽化し始めるだろう。耳を澄ませて、セミの声を聞き分けてみよう。そして、「お、この声はニイニイゼミだな」とボソッと呟いたら、周囲から（色んな意味で）一目置かれること間違いなしだ。この夏、是非試してみてほしい。

参考文献：佐藤 有恒・菅原 光二・橋本 治二, 1978, 写真・セミの世界, 誠堂新光社
林 正美・税所 康正, 2015, 改訂版 日本産セミ科図鑑, 誠堂新光社

別個体の羽化の様子→

色合いはバリエーションがあり、翅が緑色や青みがかったものもある。

